

水稻直播栽培特報

(第1号)

平成22年4月
富山農林振興センター
なのはな農業協同組合

～直播栽培の安定は適正な土壌・水管理の徹底から～

ほ場の準備

(1) 耕起～代かき

- ほ場の均平が悪いと播種ムラや出芽ムラが発生しやすくなります。耕起から砕土・整地の作業は移植より丁寧に行いましょう。
- 代かきは少なめの水で、稲株や雑草等をしっかりとすき込みましょう。また、ねり過ぎに注意し、播種作業に適した硬さに仕上げましょう。
- 播種前の代かきの時期は、下表を目安にしてください。

土質	点播	条播
砂壤土	播種2～3日前	播種1～2日前
壤質土	播種3～4日前	播種2～3日前
粘質土～半湿田	播種4日前程度	播種3～4日前

(2) 基肥の施用(コシヒカリ)

基肥は、チッソ成分で移植栽培の9割程度を目安に施用し、倒伏防止に努めましょう。

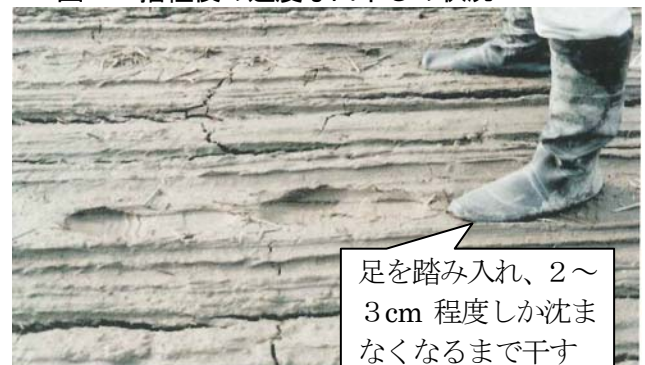
土質	一発(L p s s 直播コシヒカリ施用の場合)		分施
	(チッソ成分 kg/10a)	(施用量 kg/10a)	(チッソ成分 kg/10a)
砂壤土	6.5程度	30～33	3.5
壤質土	6.0程度	25～30	3.0
粘質土～半湿田	5.5程度	25程度	2.5

※ 大豆跡田では、倒伏の危険性が高いことからL p s s 直播コシヒカリは使用しないでください。

播種

- 播種の適期は4月25日～5月10日頃です。播種量は乾粒で2.5～3.0kg/10a程度にしましょう。
- 播種前の落水は、播種作業が午前中の場合は前日の夕方に、午後の場合は当日の早朝を目安とし、土壌条件に応じて行いましょう。
- 確実に覆土(5～10mmの播種深度を確保)されていることを確認するとともに播種作業中も種子や肥料の落下量をチェックしましょう。

図1 播種後の適度な田干しの状況

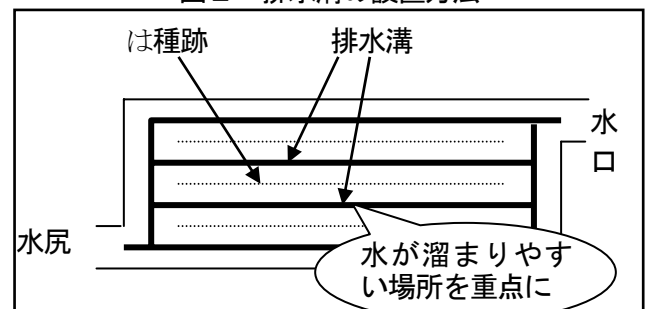


足を踏み入れ、2～3cm程度しか沈まなくなるまで干す

播種後の水管理

- 播種後の田干しを効果的に行うため、播種同時作溝や、播種後に排水溝を掘るなど、迅速な表面排水に努めましょう。
- ほ場の透水性に応じ、土壌表面に亀裂が入り渡るまで5日程度の田干しを行いましょ。

図2 排水溝の設置方法



水が溜まりやすい場所を重点に

除草剤の散布

- 除草剤は、入水後速やかに散布しましょう。使用時期の範囲内で遅れないように注意しましょう。
- 田面の亀裂が大きい場合は、ほ場に入水したあと、減水が落ち着いてから散布しましょう。

除草剤名	10a当たり散布量	使用時期	散布上の注意点
キックバイ1キロ粒剤	1kg	播種後5日～	散布後5日間は湛水状態を保つ

鳥害対策

播種深度が浅く、種籾が露出すると、カラスやスズメの食害が発生するので、注意してください。

また、カラスやカモが多く飛来すると予想されるほ場での直播栽培は避けてください。

- カモ: ほ場内に糸やテープ等を張り侵入を防いでください。カモが侵入した場合は、直ちに落水し被害を最小限に抑えて下さい。
- スズメ: 播種後、種籾が露出して見える場合は一度入水し覆土する。スズメが侵入した場合は、速やかに入水してください。
- カラス: カラスの飛来が懸念されるほ場では、播種後、ほ場内や周辺に水糸を張り、飛来防止に努めてください。

次号の、播種後の本田管理、除草剤等については、5月下旬の発行を予定しています。